

会 議 録

1 会議名

平成30年度 第7回金谷区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

(1) 金谷区の地域課題「雨水排水」について（公開）

(2) 地域協議会の運営について（公開）

3 開催日時

平成30年10月24日（水） 午後5時59分から午後7時53分まで

4 開催場所

福祉交流プラザ 第1会議室

5 傍聴人の数

1人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

・委員：高宮宏一（会長）、川住健作（副会長）、村田敏昭（副会長）、石野伸二、
伊藤三重子、牛木喜九、桑山敏男、齋藤邦博、高橋敏光、竹内恵市

・金谷区南部の町内会（代表者各1名）

中通町町内会、中田原町内会、上中田町内会、青木町内会、灰塚町内会

・下水道建設課：長谷川係長、橋立主任

・河川海岸砂防課：小山係長、上村係長

・農林水産整備課：保倉副課長、加藤係長、池田主任

・事務局：南部まちづくりセンター 佐藤センター長、佐藤係長、小林主任

8 発言の内容

【小林主任】

・伊崎委員、土屋委員、永野委員、西条委員、山口委員、吉村委員を除く10名の出席があり、上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

- ・同条例第8条第1項の規定により、議長は高宮会長が務めることを報告

【高宮会長】

- ・会議の開会を宣言
- ・会議録の確認：高橋委員、竹内委員に依頼

次第2「議題等の確認」について、事務局に説明を求める。

【佐藤センター長】

資料により説明。

【高宮会長】

事務局の説明について質疑を求めるがなし。

一次第3議題（1）金谷区の地域課題「雨水排水」について—

【高宮会長】

次第3議題（1）「金谷区の地域課題『雨水排水』について」に入る。

市から「上越市津波・洪水ハザードマップ（災害予測地図）」が各家庭に配られているかと思う。そこに金谷区等について詳しく載っている。皆さんも一読したかと思う。本日コピーを皆さんに配布できればよかったが、コピーでは住宅部分が写らない。このようなものをもとにして、今回、金谷区の雨水排水問題を論議するだろうと思い、持ってきた。

8月の会議では、金谷区の地域課題「雨水排水」の進め方について協議し、まず金谷区南部の問題から取り上げることにし、本日の会議で、市の担当課から来てもらい説明を受けることと、南部地区の町内会長へ傍聴に来てもらうよう案内することが決まった。

会議後に正副会長で協議した結果、南部の町内会の皆さんには、傍聴するだけでなく、市が把握しているもの以外の部分で、各町内会で把握している自町内の現在の問題点について、会議当日に説明をお願いし、質疑応答にも参加してもらうこととした。各町内会には、事前にどのような問題点があるかどうか、12町内会にアンケート調査を行い、4町内から回答があった。それについては、資料No.1、No.2

にまとめた。

本日の進め方について、事務局に説明を求める。

【小林主任】

金谷区南部の雨水排水に関する問題については、中田原・中通町周辺、前川、上中田・青木・灰塚周辺の3つに分かれると思われるため、この区分ごとに順番に進めていく。

まず、各町内会から説明を受け、次に、市担当課から説明を受ける。その後、まとめて質疑応答を行う。

各町内会は、全てが終わるまで同席するが、市担当課は、担当する場所が終わったら退席する。

【高宮会長】

ただいまの説明について質疑を求めるがなし。

進め方については、事務局の説明のとおりとする。

最初に、中田原・中通町周辺の問題点に入る。

中通町町内会に、資料No.1により現状の問題点について説明を求める。

【中通町町内会】

資料No.1により説明。

【高宮会長】

下水道建設課に説明を求める。

【下水道建設課 長谷川係長】

金谷の南部地区、特に中田原町内会や中通町町内会については、昔から水害に困っている地域ということを私たちも承知しており、水路を直すなどしている。しかし、古い団地などでは水路の管径が小さかったりするため、水路の流れが悪い。最近は短時間でたくさんの雨が降ることが多く、昔作った水路はそういった集中豪雨に耐えられない状況になっている。

中通町町内会から出された問題点については、私たちも承知していなかった部分もあるため、今後雨が降った時に現地に行き、原因を直接確認し、どのような方法があるのか検討していきたい。

当日配布資料No.1により説明。

【高宮会長】

質疑応答に入る。各町内会と市担当課からも質問可能である。町内会と市からの説明について、質疑を求める。

【石野委員】

時間雨量が約48ミリであふれないようにするとのことだが、資料No.1で挙げられた問題点の水路は何ミリなら耐えられる断面、勾配になっているか、把握しているのか。

【長谷川係長】

個別に測量してみないと分からない。

【石野委員】

今後どのような計画で測量をしていくのか。

【長谷川係長】

大規模な雨水排水路を作る時に、どのくらいの範囲から水が集まるかなどを調査するため、その時には分かるが、現状では個別に測らないと分からない。

【石野委員】

資料No.1①の有沢製作所東側の水路は、市が作った水路ではないだろう。有沢製作所が工場を建てた時に整地して作った水路だと思うが、それも市の管轄になるのか。

【長谷川係長】

この水路は恐らく市の方で管理していると思う。市で管理しているものは、市で改修する。ただ、土地改良区や用水組合など、市以外が管理している水路については、市で改修するのは難しい状況もある。

【石野委員】

資料No.1を見ると、全て用水路と並行している排水路に落ちる水路計画になっているが、なぜ青田川の方に逃がさないのか。全部儀明川の方に持っていつている。無理があるような気がする。

【長谷川係長】

私たちも現状の水路が能力不足だと分かっており、何とかしなければいけないと
考えているところである。

【石野委員】

すぐ近くを青田川が通っており、そちら側に落とせば何てことはない。

【長谷川係長】

専門的な話になるが、青田川や儀明川といった河川には、それぞれ水が流れ込む
範囲が決められているため、今まで儀明川に行っていたものを青田川に入れるとい
うのは簡単に変更できないが、元々見込んでいる区域であれば直せる。本来入らな
ければいけないところに入らず、違うところに行っているという状況もある。

【石野委員】

用水路から儀明川に放水するすぐ下あたりで昨年冠水し、床下浸水した。そこに
水が集中している。資料No.1 周辺の水も行っている。その辺は県と調整して見直し
を図る方が。青田川は多くなっても矢代川に放水するためよいかと。

【長谷川係長】

仲町の踏切を渡った先にある、儀明川に行く水路が小さいのが一番の原因かと思
う。この地域の水害を改善するためには下流側を大きくしないとなかなか難しいか
と思う。昔から分かっていたと思うが、構造的に用水路と排水路が一緒になってい
たり、用地が狭かったり、いろいろと課題があって進まなかったと思っている。

【高橋委員】

時間 47.6 ミリというのは20～30年前から変わらないが、近年の雨の降り
方を見ると集中豪雨が多い。これは全国的な数字だと思うが、見直すようなことは
国の方から何も来ていないのか。

【長谷川係長】

下水道の基準では5年から10年に1回の雨に耐えられるように設計するのが
標準と定められていて、市ではその中間の7年に1回の大雨に耐えられるというこ
とで、47.6 ミリとしている。

【高橋委員】

この前91ミリ降った時は、100年に1回だと言っていた。そのため、「水が浸

かったのは運が悪かった」で終わってしまうが、今もそうなのか。

【長谷川係長】

過去の雨量を計算すると、このくらいの数字に収まる。

【高橋委員】

最近は全然違うと思う。

【長谷川係長】

確かにここ最近の3年間くらいでは急激に降ることもあったが、長い年月でみると、平均でこのくらいに落ち着く。

【高橋委員】

「運が悪かった」というので終わってしまうため困ってしまう。

【高宮会長】

町内会から何かあるか。

【中通町町内会】

よく検証し、検討してほしい。

【高宮会長】

以上で、中田原、中通町周辺の問題点を終了する。

2番目に、前川の問題点に入る。

河川海岸砂防課に説明を求める。

【河川海岸砂防課 小山係長】

当日配布資料No.2により、工事の状況等を含め説明。

前川は従来から川幅が狭く、氾濫の危険性が高かったため、川幅を拡幅して家屋等の浸水被害の軽減を図る目的で整備を行っている。

平成4年から改修工事に着手し、徐々に改修工事を進めてきた。資料の起点から終点まで、全体の延長で1,020メートルという形で計画していた。

平成27年度から平成30年度までの345メートルを一区切りとして整備が完了することで、前川沿線上の浸水被害の危険性の高い箇所に対する対策が図られるものと考えている。

小滝公民館から上流については、一部蛇行している区間にはコンクリートの側溝

を整備しており、また既存の護岸がブロック積みになっていることから、浸水の被害の危険性は低いものと考え、整備は行わないと考えている。整備の範囲については、前川の改修促進期成同盟会の総会でも説明し、皆さんから理解いただいたところである。

【高宮会長】

ただいまの説明について質疑を求める。

【高橋委員】

今小滝辺りを工事しているが、最終的には上門前までするのか。

【小山係長】

今年度の工事の小滝公民館前を通る市道小滝線のあたるところまでを整備する。その上流側は既存のブロックがあり、それをそのまま利用するというので、現時点では整備は考えていない。

【高橋委員】

金谷地区振興協議会で要望書を出していると思うが、できれば上門前まで延長してもらえば、地元としてもよいと思う。今計画に入っていないのであれば、考えてもらいたい。

【青木町内会】

先ほどの時間雨量47.6ミリも関係してくるが、今までの川と改修した川の流れ方、流速は測っているか。

【小山係長】

改修後のものは測っていない。川の断面としては、今まで1メートルくらいの幅が、改修すると3メートルほどの幅になる。広がってはいるが、改修後の計測はしていない。

【青木町内会】

今までの古い川は蛇行して流れていた。それがまっすぐになったということは、流速が早くなっているということ。上（かみ）の人はよいが、水下（みなしも）の人はその流速で満水になり、オーバーフローで浸水する。それを計算に入れて改修しているのかどうか聞きたかった。

【小山係長】

設計の段階で河床の勾配を計算し、合流先の青田川への影響などを含めて計画しているため、満たしていると思う。

【青木町内会】

満たしているというのは。

【小山係長】

下流のことも考えての計画になっていると考えている。

【青木町内会】

前川から青田川に出たからのことも考えているのか。

【小山係長】

そのとおり。

【青木町内会】

というのは、この後出てくるが、西中江用水や古川排水路の件に響いてくる。流すところがない。私たち青木は水下（みなしも）であり、目の前で水があふれる。今までは、雨が降っても田んぼなどに溜まり、水がしみ込んでゆっくり流れていた。ところが河川改修でまっすぐにしてしまうと、一気に水が流れる。ゆっくり流れていたのが走るという状態になる。それが一気に水下（みなしも）に来る。それで途中で飲み込めなくなり、水があふれる。私はそれをものすごく危惧している。

【小山係長】

計画時点では当然下流のことも考えている。

【青木町内会】

その辺を工夫して、流速を考えながら河川改修してほしい。凹凸（おうとつ）にするなど。平らにしたら確かにきれいだが、流速は一気に水下（みなしも）に来る。青田川は大丈夫とのことだが、それを信じてよいのか。

【小山係長】

前川では、流速を早くしないために川の底にコンクリートを打っていない。また、両側のブロックもつるつるのものではなく、極力流速が遅くなるような形のものを検討した上での整備になっている。

【高宮会長】

以上で前川の問題点を終了する。

3番目に、上中田・青木・灰塚周辺の問題点に入る。

これについては、上中田・青木・灰塚の3町内会から現状の問題点について回答があった。まず、上中田町内会に説明を求める。

【上中田町内会】

資料No.2により説明。

【高宮会長】

次に、青木町内会に説明を求める。

【青木町内会】

資料No.2により説明。

【高宮会長】

最後に、灰塚町内会に説明を求める。

【灰塚町内会】

資料No.2により説明。

【高宮会長】

続いて、農林水産整備課に説明を求める。

【農林水産整備課 保倉副課長】

当日配布資料No.3により説明。

「古川排水路」については、資料の実線で表示している。今年度、青木の団地の角から新幹線保守基地を過ぎ青田川までの間において、どのあたりから水が入ってきているのか、また古川排水路の断面の大きさ、河床の勾配がどうなっているかをコンサルタントに調査委託しており、冠水被害がどのようにすれば緩和されるのかを検討している。

「田んぼダム」については、上越市内の中山間地や平野部も含め、多数の農家の方がこの取組を行っている。金谷区の古川排水路の上流の町内の方にこの取組をしてもらえば、古川排水路へ水が遅れて流入することになり、ピークを抑えることができる。排水施設の構造により水量調整には4つの方式がある。

【高宮会長】

それでは質疑応答を行う。各町内会と市からの説明について質疑を求める。

【石野委員】

青木町内会に聞きたいが、杉山団地の雨水は古川排水路に入るのか。

【青木町内会】

入る。

【石野委員】

ということは、農林水産整備課だけではなく下水道建設課も関係する話になる。農地だけだと、もし工事が入ると全て田んぼの地権者に負担金がかかる。そのため、これは農地だけなのか、他の土地もあるのか。

また、私も噂でしか聞いていないが、古川排水路の下流の方で数年前に改修の話が出たが、田んぼの地権者の反対があり頓挫したと聞いている。そのため、上中田町内会に聞きたいが、改修となった時、周辺の地権者から100パーセント同意が得られるのかどうか。恐らく上（かみ）の方はよいと思うが、下流の方が長い。

【上中田町内会】

昔、その話が来た。聞いた話だが、遊歩道とか、子どもたちがそこで勉強できるような河川にしたいなど、ものすごく立派なもの。しかし、用地の確保も遊歩道の確保もできないため、駄目だったようだ。掘割になってしまうため、言われるようなよい川にするには用地がない。結局、用地買収の話もできなかったのではないかな。

【石野委員】

頓挫したという話を聞いた。

【上中田町内会】

そのとおり。

【石野委員】

上流側で2つ問題になる。西中江用水の下側を通るトンネル部分で水が飲めないのか、直角で曲がるところで抵抗が大きく飲み込めないため、北側の田んぼが冠水するのだと思う。流れて来る量を100とすると、半分くらいまでは落ちるのでは。ましてやそこは草がいっぱいで断面がない。そこから下は勾配が付いているため、

水は飲めるはず。ある程度雨が降った時に現地をよく確認し、本当に直さなければならぬ部分を見分けないとイケないと思う。上を通る西中江用水も、用水組合がどうなっているか、空中分解したようで。そこを修繕するといっても金もないし何もできないと。古川排水路の方が先にあり、そこに西中江用水を作ったため、実際は西中江用水を直さないといけないと思う。しかし、現実的には空中分解しているためできないという話。西中江用水の管理はどこがしているのか。

【灰塚町内会】

西中江用水の組合自体はあるだろう。

【石野委員】

会員が少なくなってしまい、実際には。

【上中田町内会】

下流はほとんど田んぼがない。

【灰塚町内会】

川の掃除も行かない。出ないでよいというかたち。

【上中田町内会】

西中江用水の下を通るトンネルは、昔見たことがあるが、石積みで9 1センチ平方。その上流が幅2メートルくらいで、深さが1メートルくらい。その水が来たら、絶対飲み込めない。半分しか流れない。

【石野委員】

西中江用水と交差するところから、直角に曲がる場所まで水で埋まったというのは、私は記憶がない。古川排水路はここで深くなり、5メートルくらいあるだろう。

【灰塚町内会】

当日配布資料No.3のとおり水で埋まった。

【石野委員】

田んぼが埋まったのはよいが、古川排水路が直角に曲がった後、勾配がかなりきついついところが埋まり、田んぼの上まで全部水が被ったというのは、記憶にない。

【灰塚町内会】

西中江用水の下を通るところが飲み込めず、冠水した。

【石野委員】

恐らく、青木の団地の貯水池で一旦止める。ある程度多くなって、オーバーフローしたらこちらに入るのだろう。それまでは耐えられるが、それ以上降ると。去年、おととしの豪雨は、時間あたり58ミリくらいだったと思う。それは高田の観測所の数値で、この近辺にはないため分からない。古川排水路は、西中江用水の下でも引っ掛かり下流に流れないため、どうしようもない。

【青木町内会】

西中江用水の下を通る古川排水路の大きさは91センチ平方とのことだが、この穴を大きくしても、確かに私たち青木町内会はよいが、水下（みなしも）の上中田町内の人には絶対迷惑をかけたくない。穴を大きくすればよいという問題ではないと思う。次に考えられるのは、古川排水路の直角で曲がるところに、水位を越えたら青田川に出るような水路を作ってもらったらどうか。

【石野委員】

勾配は取れるのか。

【青木町内会】

低いのだが、高くする。団地に被害が及ばないような水位のところで青田川へ出るようにする。

【石野委員】

バイパスか。

【青木町内会】

そう。もしくは、山麓線の水下（みなしも）でもよい。全部流すのではなく、オーバーフローした水、もしくはある程度の水位になったら、東ではなく北へ落ちるようにする。「田んぼダム」のように止めてもらい、青田川へ早めに落とすような工夫をしてもらいたい。

【石野委員】

県道後谷黒田上越妙高停車場線から南側の排水路は古川排水路に入っていく、県道から北側は全て青田川に排水している。本当は山麓線の排水を全て青田川に流す

ようにすればよかった。そこまで予測できなかったのだろう。

【青木町内会】

それを、水位を越えたら青田川に流れるようにする。古川排水路に水が来てもよいが、このままでは飲み込みできないため、超えた水位を北へ流してほしい。

【灰塚町内会】

青田川は高い。

【青木町内会】

高いが、超えた水位だけを飲み込んでもらえばよい。

【灰塚町内会】

水が落ちるまでに高くしておかないと、青田川に落ちない。青田川が低くなるところまで水路を引っ張ってきて、それから落とすような格好になる。

【青木町内会】

低くなるところで落ちればよいが、そうしないと西中江用水の下を通るところで溜まってきてしまうため、何かよい方法はないかと。

【石野委員】

特別支援学校や野球場の雨水の排水は、古川排水路に入るのか。

【青木町内会】

そのとおり。

【石野委員】

農地だけでなく、宅地からも入ってくる。

【青木町内会】

うちの町内も改善の要望を出す以上、町内の73軒が来年度下水道工事をするという話になっている。平成22年には、その73軒全員が下水道工事に反対し、要望書を出した。それを来年度に実施するよう、今年改めて提案した。古川排水路に出す量を少しでも少なくする工夫を私たちがきちんと考えないと、意見を言えないと思った。

【石野委員】

雨水は古川排水路に行くのか。

【青木町内会】

雨水は行くが、下水道。今は合併浄化槽の水まで古川排水路に落ちている。1日1軒で1立方とすると73立方であり、毎日すごい量になる。

【高橋委員】

私もこの現場を何度か見て、地元の方と話をしている。山麓線開通後から、山麓線の道路の幅と長さ分の水が増えたのは私も間違いないと思っている。そのため、青木町内会のとおり、水位が上がる。古川排水路には、直角に曲がる場所から西中江用水の間に杭を打って板をはめてあったが、古くなって傾いており、突っ張り棒をかってある場所もあるが、その突っ張り棒をもう少し起こせばよいかと思う。また、西中江用水の下をくぐっているが、出口が小さくて向こうに出ない。直角に曲がる場所で跳ね返り水が逆流することと、杭を打った板のところで流れがよくないことと、出口が狭くなっているということが問題。オーバーフローした分が青田川の方に行けば、多少でも違うような気がする。今年調査に入るという話を聞いたが、古川排水路だけの調査でなく、山麓線の道路の幅と長さを計算すれば降水量が分かるため、そこも見てもらいたい。今まで沖灰塚の田んぼまで水がついたことはないが、山麓線完成後から水が増えたのは確かな話だと。灰塚町内会もそう思うか。

【灰塚町内会】

そう思う。

【高橋委員】

私もそう思う。その辺の調査もしてもらいたい。

【石野委員】

当日配布資料No.3は平成29年7月1日の状況で、この時はあまり記憶がないが、その後の大雨で、ガスタンクの南側の田んぼまで冠水した。恐らく認識していると思うが、市の方でそこもきちんと認識してほしい。この時はこの時だけで収まったのかもしれないが。

【青木町内会】

あぜが少し見えるか見えないかくらいにはなったが、その下（しも）の方はほと

んど埋まっていた。完全な冠水という理解。

【灰塚町内会】

平成24年の時も、県道の下まで冠水した。

【石野委員】

県道の向こう側も同じ水位であるため、全部田んぼが埋まった。

【齋藤委員】

当日配布資料No.3の紫の部分は冠水している箇所ということだが、今回このクランクの部分の改修工事が終わったという話か。

【青木町内会】

これから調査に入る。

【齋藤委員】

この工事はいつ頃するのか。とりあえず調査だけか。

【保倉副課長】

そのとおり。

【青木町内会】

調査の委託に入っただけで、工事はまだまだずっと先。

【齋藤委員】

このような状態だと、現状の認識ということによく分かった。またこのような湛水状況に何回もなるということ。

下(しも)の方では、私も上中田の団地に行っているが、このような感じになる。去年の7月にもかなり降り、避難一步手前だったかもしれない。多少余裕はあったが、皆さん外に出て心配している状況だった。

【上中田町内会】

お年寄り2人で住んでいる家はパトカーを呼んだ。私たちの家はどうなるのだと。パトカーが来ていると近所で心配したら、青田川の水が一気に上がってきた。青田川がカーブしているところで、カーブの手前はよいが、カーブの向こう側は水が流れてギリギリまで行く。お年寄りは心配する。

青田川というが、青田川ももう目いっぱい。

【中通町町内会】

青田川は草や木などが流れを阻害している可能性が大きい。結構太い木などが河床から生えてきている。それを整備してもらおうと、もう少し水の流れがよくなる。すぐ下流には矢代川への分流点も控えている。そのような草木が流れを阻害しているのではないかと感じる。

【灰塚町内会】

去年話をして、柳の木を全部切った。今年は葦（よし）。

【中通町町内会】

うちの町内から下流は手をつけていない。

【灰塚町内会】

そのもっと下流に行くとまたよくなる。

【石野委員】

青田川は県の管轄になるため、いかに地元が要望を出すかだと思う。受け入れられるか分からないが、要望は県なら県にとにかくどんどん出す。または、河川海岸砂防課経由など。とにかく通って仲良くなる。

【齋藤委員】

私も少し田んぼをしており、排水関係の話を土地改良区にしないわけではないが、古川排水路については、土地改良区は全然関係なく、市の方の関係でよいか。

【石野委員】

上中田は和田土地改良区に入っている。

【齋藤委員】

それでは、古川排水路は土地改良区も絡んでいるということか。

【石野委員】

半分、下流は絡んでいる。

【齋藤委員】

青木の方は市か。

【保倉副課長】

青木は土地改良区には入っていない。

【農林水産整備課 池田主任】

新幹線の線路から東側の方は土地改良区が入っていると思う。

【齋藤委員】

そこでは、資料No.2の写真のような状態。先ほどの青田川と同じような状況にあるということ。クランクの部分の話は直接関係ないかもしれないが、下（しも）の方も水が浸かり、池のような状態になっている。私もよく見ていないため分からないが、野球場の方から来る水も合流している。全体を一緒にやらないといけない。青田川の方に逃がすという話もあったが。

古川排水路は杉山団地ができた時からこのような状態だったのか。

【上中田町内会】

昔から変わらない。団地開発した部分だけ三面コンクリートの側溝になっている。

【齋藤委員】

再三再四、何年も振興協議会の年末の要求で毎年出しているが、まだ調査というような状態ということは、現状を認識していないということか。どうなのかと思う。今までの市の取組は分からないが、今までこの問題についてどう考えて来たのか。

【高橋委員】

やっところまで来た。

【青木町内会】

私は今年度コンサルタントに委託してくれただけでも前進していると思っている。今まではそこまで行っていない。

【高橋委員】

青田川というのは厄介者で、絶えず水が流れているわけではない。今年のように夏になると水がなくなり、草や葎（よし）が生えてくる。雨が降ると要らないほどあふれ、困っている。多少被害が出てくる。農業用水としてはあまり役に立たない。要らない時に水がいっぱい来て、欲しい時に水がない。青田川を整備するなら、上（かみ）の方で一つ小さいダムのようなものを作って水を調整すれば、スムーズにいつも水が流れてよいと思っている。古川排水路と青田川は性質が全然違うため、その辺を踏まえて考えてほしい。

【青木町内会】

青田川関連で、七か字用水組合というのがあり、貯水槽を作っていかなければいけないような状態になるのではないのかということで、7月20日に会議をした。その後に8月前半に濁水があり、山麓線沿いの3か所で給水対応があった。もう動き始めている。これがきちんと動くよう、行政としても応援してほしい。貯水槽を作ろうという計画が出始めている。

【石野委員】

あれはため池。ため池は県の助成金が出ている。

青田川の話になったが、青田橋の下に県の水位観測所ができた。これまでは、青田の人に頼んで、毎日1回水位を見て県と連絡を取っていたが、今は自動的に出る。県のホームページで水位を見られる。今後は、青田川の水位がどのくらいになったら古川排水路にどう影響するかというのを見ながら研究してほしい。

【上中田町内会】

川の杭について、原材料の支給や重機の借上げなどは今も可能か。

【農林水産整備課 加藤係長】

今も制度があり可能。

【上中田町内会】

規模はどのくらいまでか。

【石野委員】

多面的機能支払交付金を使った方がよい。

【上中田町内会】

書類が面倒。

【保倉副課長】

多面的機能支払交付金を行っている区域については、多面的機能支払交付金を活用してほしい。取り組んでいない区域を補う形で原材料支給や借上げの制度を用意している。

【石野委員】

原材料支給は駄目と。青木も黒田も灰塚も多面の計画区域に入っている。区域と

して入ってしまうと駄目。

【桑山委員】

「田んぼダム」のことだが、「田んぼダム」を作ったために農地が冠水してしまったのか。

【保倉副課長】

違う。金谷地区の古川排水路に面した町内、農家組合などでは、「田んぼダム」はまだ活動されていないため、ぜひ取り組んでほしいというお願い。

【桑山委員】

「田んぼダム」を農地の管理者に依頼するシステムはあるのか。

【保倉副課長】

多面的機能支払交付金を活用している組織には紹介している。皆さん承知されているが、まだ取組はされていないということ。

【石野委員】

この辺の田んぼは一反田んぼになっているため、あぜの高さが低い。そのため、溜められる量がわずかしかない。3反田んぼや5反田んぼ、町歩田んぼのような大きいところであれば、あぜの高さが結構あるためダム方式にできるが、小さい田んぼはあぜの高さがほとんどなく、普通に水を入れてもそれ以上溜められないような状態であるため、さほど効果はないと思う。そこも見てもらわないと。

【高宮会長】

以上で、上中田・青木・灰塚周辺の問題点を終了する。

金谷区南部の雨水排水に関する問題について、皆さん現状が分かったかと思う。次回以降、本日聞いた結果をもとに、今後どのように進めるか協議したい。

—その他—

【高宮会長】

続いて、次回協議会の議題を決める。

次回会議で「雨水排水」を協議することは可能だが、今回は出張地域協議会であ

り、中部の金谷町内会館が会場となる。「雨水排水」を議題にして本日の続きから協議するか、それとも違う議題にするか、協議したい。なお、前回の滝寺での出張地域協議会では、傍聴に来た方にも内容が分かりやすいことから、「観光」を議題に取り上げた。

次回会議の議題について、委員に意見を求める。

【石野委員】

正副会長に任せる。

【高宮会長】

正副会長の案としては、今回も「観光」を取り上げ、前回会議で使用した資料に、協議の中で新たに出された意見を追加し、それをもとに前回の続きから協議する。あるいは傍聴に来た方からも、地域の観光に関することについて、意見交換等で話を聞いてみる、ということを考えている。

このとおりでよいか諮り、委員全員の了承を得る。

— 次第3 議題（2）「地域協議会の運営について」 —

【高宮会長】

次に、次第3 議題（2）「地域協議会の運営について」に入る。

ここでは、1 2月の会議の日程について協議したい。

金谷区地域協議会では、毎月第4水曜日を定例日としているが、1 2月の第4水曜日は1 2月26日であり、年末にあたる。去年、おととしは、1週間早めて第3水曜日に会議を開催した。今年度も同じく1週間早めるかどうか諮りたい。ちなみに、第3水曜日は1 2月19日。

今年も1週間早めるかどうか、委員に意見を求める。

【高橋委員】

正副会長一任でよい。

【高宮会長】

1 2月19日開催でよいか諮り、委員全員の了承を得る。

毎年12月の開催日について協議しているが、12月については1週間早めの第3水曜日に行うことで決めておくと、毎年諮らなくてよい。このことについて、委員に意見を求める。

【高橋委員】

今決めたのではないか。

【高宮会長】

今年はそうだが、毎年そうしたらどうかと。

【石野委員】

春に年間計画を出し、そこで決めるのでよいのでは。

【高宮会長】

そのようにしたい。

—次第4 事務連絡—

【高宮会長】

次第4「事務連絡」について、事務局に説明を求める。

【佐藤センター長】

・今後の日程

第8回地域協議会（出張地域協議会）

11月28日（水）午後6時30分～ 金谷町内会館

【高宮会長】

事務局の説明について、質疑を求めるがなし。

なお、11月14日（水）に地域協議会会長会議が予定されている。議題は、来年度の地域活動支援事業についてになると思われるため、承知しておいてほしい。

・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課

南部まちづくりセンター

TEL : 025-522-8831 (直通)

E-mail : nanbu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせて御覧ください。